310PRESS
発行：衆議院議員 柿沢未途
〒135-0047 江東区富岡1-26-21
TEL 03-5620-3104 FAX 03-5620-3105
公式WebSite www.310kakizawa.jp Twitter @310kakizawa

東京オリンピック・パラリンピックへ―

木造競技施設で日本の「木の文化」を世界へ発信

衆議院議員 柿沢未途（みと）

安倍総理「実は若い頃、材木町という町に住んでいました。」

２０２０東京オリンピック・パラリンピックで、日本古来の「木の文化」を活かした木造競技施設が作られる事になる、一つのきっかけともなる総理答弁でした。

新しい党の政調会長に就任後、初めての国会質問となった2月3日の予算委員会。冒頭、わが江東区のシンボルでもある永代橋を安倍総理が施政方針演説で取り上げてくださった事に御礼を申し上げました。隅田川にかかる青空のようなアーチ型の美しい永代橋は、関東大震災からの復興を目指し、当時の技術の粋を尽くして建設されました。震災復興のくだりで安倍総理はこの永代橋の建設をめぐる物語を取り上げられたのです。

永代橋が最も輝くのは、富岡八幡宮の神輿連合渡御でしょう。氏子各町神輿５３基がワッショイ、ワッショイのかけ声とともに、次々に永代橋を渡り、八幡様にお宮入りします。深川の誇るべき伝統文化です。

富岡八幡宮の先には木場があります。その名の通り、江戸から続く材木屋さんの街です。地元の方々は木材業を通じ、またお祭りを通じて、日本古来の「木の文化」を脈々と継承してきました。そこに２０２０年、オリンピック・パラリンピックがやってきます。

私の質問では１９９８年の長野冬季オリンピックでスピードスケート会場となり、パラリンピックでは開会式場となった「エムウェーブ」の写真をパネルで示しました。美しい信州の山並みをイメージした独創的な設計で、信州産カラマツの間伐材を吊り屋根に使用しています。戦後の植林政策で増えたカラマツはねじれて建築材としての使用が難しかったのを技術的にクリアして建設が実現しました。

森林が国土の７割を占める日本は、古くから「自然との共生」を生活の指針とし、木を信仰の対象とすらしてきました。神社仏閣もお神輿もその象徴です。「エムウェーブ」のような木造競技施設を作り、また競技施設の内装にも欄間や建具のような装飾を取り入れて、日本が誇るべき「木の文化」を世界に発信すべきだ、と説きました。そこで飛び出したのが冒頭の安倍総理の答弁だったのです。

長野五輪スケート会場「エムウエーブ」。信州の山並みをイメージした外観、吊り屋根には信州産カラマツの間伐材を使用

オリンピック担当相である下村文科相からも、予算委員会終了後の立ち話で、大変、心強い言葉を頂く事ができました。NHKの国会中継で生放送されていましたので、材木屋さんをはじめ江東区内の皆さんからも「ぜひ実現してほしい」と大きな反響がありました。その後、木材関係団体の会合に伺って、２０２０年に日本の「木の文化」の発信のために何ができるか、議論させて頂いています。

これまで都市における木造建築は「木は燃えるので危ない」という固定観念から忌避されてきました。江東区も気がつくと鉄筋コンクリートのビルやマンションが立ち並ぶ街になってしまいました。神社仏閣ですら防火地域では木造で建て直す事が許されなかったのです。これが下町の風情が消えていった原因の一つです。

しかし今や耐久性があり火にも強いＣＬＴ（直交集成材）と言われる木の建材が世界的に広がりを見せており、イギリスでは９階建てのマンションが木造で建てられたり、スウェーデンの建築家が３４階建ての木造高層マンションを設計したりしています。欧州では建物を建てる時にまず木造建築を考えて、できなければ別の建築工法を考えるという「ウッド・ファースト」の思想が定着しつつあります。「木の文化」の日本がそれに立ち遅れていてはなりません。

２０２０年のオリンピック・パラリンピックは絶好の機会です。特区制度の活用等も視野に置きながら、競技施設だけでなく、街全体に木の香りが立ちのぼってくるような「木造建築ルネッサンス」を展開できたらと思っています。それは文化国家としての日本の価値を世界に発信する事となり、オリンピック・パラリンピックが残す最大のレガシー（遺産）の一つとなるでしょう。

建築会社C.F. Mollerが提案した
ストックホルムの
木造３４階建てマンションの図面

▲富岡八幡宮例大祭・神輿連合渡御。この永代橋を渡っていよいよ祭はクライマックスを迎える。

▲柿沢未途の質問に答える安倍総理。通常国会冒頭の演説では永代橋について言及された。

▲「東京木材問屋協同組合」の理事会にて、実際に使用したパネルを手にして、予算委員会での安倍総理との質疑応答の報告。

柿沢未途 PROFILE

柿沢未途（かきざわみと）／衆議院議員。結いの党政調会長。

1971年1月21日生まれ。江東区立数矢小、麻布中・高を経て、東大法学部卒。

1995年NHK記者となる。長野放送局に勤務、長野五輪報道に携わる。

2001年、2005年東京都議会議員に2 期連続当選も、任期途中で自らの事故の責任を取り辞職。禅寺での修行や末期癌の父の看病をする。

2009年衆院選にみんなの党で比例復活当選。2012 年衆院選は東京15区で88,222票を獲得し小選挙区で２期目の当選。

2013年８月、政界再編をめぐりみんなの党を断腸の思いで離党。無所属へ。

2013年12月、結いの党の結党にともない、政調会長に就任。

2009年の衆院初当選以降、計300回を超える国会最多の質問回数を記録、NPO法人の「国会議員三ツ星データブック」でも常に★★★の評価を受けている。

結いの党の政調会長として国会論戦の最前線に立つと同時に、政界再編をめざし、日本維新の会との合流を視野に置いた政策協議を進めている。

お祭りをはじめとする地元・江東区の行事に積極的に参加、国民の抱える問題に常に向き合いながら、即座に国会質問の場で取り上げるなど、地元・江東区と国会を日に何度も往復する" 東京選出" の地の利をいかした議員活動を信条とする。

舛添新都知事が誕生

舛添要一新都知事が誕生しました。党の方針で「脱原発」を正面から説いた細川護熙元総理を側面支援しましたが、残念ながら及びませんでした。

舛添氏はかつての「朝まで生テレビ」での柿沢弘治の討論相手でもあり、一度は都知事選に一緒に出馬したライバルにもなりました。私自身も趣味の競馬をめぐる対談で「週刊競馬ブック」という雑誌に東京ダービー馬の馬主だった舛添氏と一緒に登場したばかりで、急転直下の都知事選で別陣営になる事にはやや複雑な思いがありました。

これも国会で質問しましたが、２０２０オリンピック・パラリンピックの主な会場地となる江東区をはじめとしたベイエリアは、バブル崩壊による臨海副都心開発の頓挫によって、いわば手付かずのまま放置されてきた地域でした。これまで開発ポテンシャルが低いと見なされてきた地域をこの機会に面目を一新する、ロンドンがオリンピックを通じて遅れたイーストロンドン地域で進めたような開発構想が必要だと思います。もちろんアクセスとしての地下鉄８号線の計画等も重要です。

猪瀬前知事とも都営とメトロの地下鉄一元化等の政策ではタッグを組んできました。残念な形での退場になってしまいましたが、「東京世界一」を掲げる舛添新知事とも、都政に関する政策面での問題意識を交換していきたいと思います。

競馬ブック対談の舛添柿沢写真、競馬界では知らない人はいない生産者、ラフィアンの岡田繁幸氏と

問題発言、天下りネットワーク…NHKは誰のもの？

NHKの籾井新会長が選ばれて、就任記者会見で驚くべき発言を行なって以降、国会で公共放送のあり方が問われ続けてきました。発言取消しの連続、国会答弁もグダグダで、お目付け役の経営委員会（こちらも何人かの経営委員の言動が物議を醸しましたが）の浜田経営委員長からも厳重注意を受ける事ともなりました。私自身もNHK記者出身として「政府が右と言うものを左とは言えない」という籾井会長の発言には報道の政治的中立性の観点から強い懸念を覚えました。

同時に私が追及してきたのがNHKの経営体質です。予算委員会でもパネルで取り上げましたが、国民の支払う受信料で成り立っているのに、子会社をはじめ関連団体を２４も作って、そこにNHKのOBを天下りさせています。わざわざ「関連団体の天下り役員は６４歳まで」とする内規を平成２３年１１月に作っておきながら、籾井会長の初の人事であっさりそれを破って６６歳での天下りを認めています。関連団体の役員報酬はのきなみ１５００万円以上。一体、NHKは誰のものなのでしょうか。

■NHKの主な子会社

NHKの「天下りネットワーク」？

会　社　名	常勤役員／OB（人）	役員報酬平均（万円）	NHK本体からの受注率	剰余金等（億円）
NHKエンタープライズ	13／11	1623	71%	146
NHKエデュケーショナル	6／ 6	1550	78%	53
NHKグローバルメディアサービス	7／ 7	1714	87%	80
NHKプラネット	3／ 3	1533	74%	20
NHKメディアテクノロジー	7／ 7	1529	75%	99

NHK24関連団体（子会社・関連公益法人・関連会社）の常勤役員数124人うち

OB天下り97人、利益剰余金計965億円（平成24年度決算）

硫黄島、日米合同慰霊追悼顕彰式へ

3月19日、硫黄島へ初めて行きました。東京から南に1200キロ、小笠原諸島のそのまた先の絶海の孤島。そこが戦史に残る激戦の地となりました。クリント・イーストウッド監督の日米の視点からの二部作の映画ともなった「硫黄島の戦い」です。

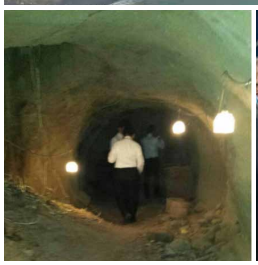
昭和20年2月19日、米海兵隊が11万の兵力で上陸。しかし5日間で終わるとされていた硫黄島の戦いは1ヵ月余りを要し、島内に縦横に張り巡らされた地下の塹壕に立てこもった栗林忠道中将以下の守備隊との壮烈な戦いにより日本側約2万人ほぼ全員が玉砕、米兵にも約2万8600人の死傷者が出ました。水もなく、装備も補給も尽きた日本兵に、戦車にロケット砲と火力の限りを備えた米兵が最後まで苦しめられました。

なぜ玉砕まで戦ったのか。それは栗林中将の家族にあてた手紙に表れています。南海の火山島の50度を超す暗く暑い地下塹壕。栗林中将はそこから41通の手紙を書いています。

『もし私の居る島が敵に取られたとしたら、日本内地は毎日毎夜のように空襲されるでしょうから、私達の責任は実に重大です。それで皆決死の覚悟です』

『最後に子供達に申しますがよく母の言付を守り、父なき後母を中心によく母を助け相はげまして元気に暮らして行く様に』

硫黄島の戦いをきっかけに米軍は本土上陸をあきらめたと言います。家族を思い、祖国と故郷を守るために生命をなげうった将兵の犠牲の礎の上に今のわが国がある事を忘れてはならないと思います。



▲空から見る硫黄島。手前が摺鉢山

◀硫黄島で戦った元海兵隊員（右）

◀地下塹壕の一つ、医務科壕。中は40度にもなる蒸し暑さ（左）

コーシュー・オブ・ジャパン

（三沢茂計社長と）

予算委員会における予算案審議の終盤、地方公聴会で山梨県に出かけた。ちょうど豪雪により大きな被害を受けた直後だった。

立ち寄ったのは「グレイスワイン」のブランドで知られる中央葡萄酒のワイナリー。三沢茂計社長は甲州ワインを世界に広めるリーダーだ。晩年、八ヶ岳山麓に住み、山梨県特別顧問を務めた亡き父・柿沢弘治の友人でもある。いわば求道者である三沢社長のあくなき質の追求により、今や甲州ワインは本場の欧州でも高く評価されつつある。

欧州では「コーシュー・オブ・ジャパン（KOJ）」が合い言葉だそうだ。「おい、略称を読むとコージじゃないか」と予算委員長の二階俊博先生がおっしゃった。

平成26年度

柿沢未途 後援会総会

火曜討論 **江東タックル**

柿沢未途の後援会総会を開催いたします。今年は「火曜討論・江東タックル」と題し、結いの党の江田憲司代表のほか、民主党・長島昭久衆院議員、日本維新の会・松野頼久衆院議員など、日本を導く若きリーダーが江東区に集結、失われた民主主義を取り戻すべため、野党再編の展望など、熱く激論を交わします。ぜひ、ご参加ください。

日時・平成26年6月17日㈫ 開場 18:00 開会 18:30

会場・ホテルイースト21東京1F大ホール

会費・3,000円 ※当日は、お弁当のご用意があります。

主催：新都市経済研究会

お申込・お問合せ：柿沢未途事務所 TEL 03-5620-3104

結いの党 代表
江田憲司

結いの党
柿沢未途

民主党
長島昭久

日本維新の会
松野頼久